

た。乳児保育の経験はあっても、子育て支援の必要性と一時預かり事業の意義、一時的な保育場面における保護者支援については研修が必要であることが指摘されていた。

ヒアリングでは、保育士資格の有無や経験年数と、子どもを預かり保護者の子育て支援を行う力量は必ずしも一致しないことが指摘されていた。保育所と一時預かり事業の違いから、保育士資格や経験の有無は不問とし、基礎研修はすべての従事者が受講することが望ましいとした。

基礎研修の内容は、一時預かり事業に携わる上で不可欠な最低限度の知識・技術・態度を示した。これらを獲得していない従事者の場合には、子どもの事故を発生させることや子どもや保護者の不安を高め一時預かり事業の利用者を遠ざける可能性があり、確実に獲得することが望ましい。

基礎研修の内容は短時間の一時的な預かりを行うための研修内容であり、継続的な利用者や長時間の利用者が多い場合には、保育士養成課程に準じた研修内容が望まれる。

(2) スキルアップ研修の内容

スキルアップ研修内容は、一時的な保育を経験した後に学習することが望ましい研修内容を示している。研修は継続的に行うことが効果的であり、短時間の利用者が多い一時預かりの場では、一時的な保育に携わる以前に多くの研修を行う必要は低く、むしろ一時預かり事業に携わった後にスキルアップの学習として研修を行っていくことが望ましい。

4. 一時預かり従事者研修モデル試案

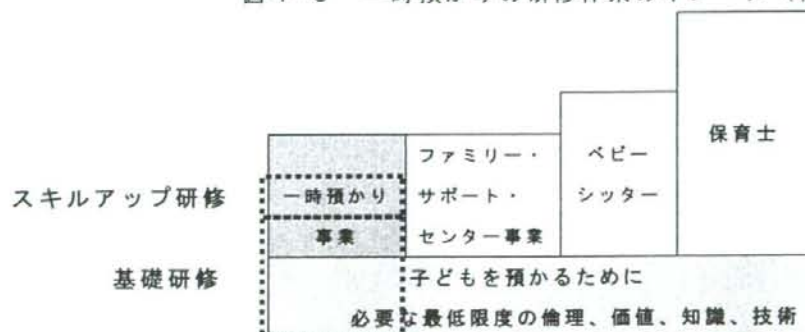
(1) 研修日程

一時的な保育を行ううえで不可欠な知識や技術等を獲得する研修モデルを以下のように示す。基礎研修は図4-4に示す「子どもを預かるために必要な最低限度の倫理、価値、知識、技術」に該当するもの、及び一時預かり事業の従事者として最低限度学ぶべき内容である。また、スキルアップ講座は基礎研修内容を踏まえて、一時預かり従事者としての経験を積みながら、さらに習得することが好ましいと考えられる内容を提案している。

表4-5 一時預かり事業 研修科目

	科 目	時間数
スキルアップ研修	子どもの発達と子どもとのかかわり	4時間
	一時的な保育における子どもの遊びとその援助	2時間
	一時的な保育における生活援助の内容と方法	2時間
	一時的な保育における保護者支援の内容と方法	4時間
基礎研修	事故発生後の対応と危機管理	2時間
	一時的な保育の事故防止と健康管理	2時間
	一時的な保育における子どもとのかかわりと遊び	2時間
	一時的な保育における保護者支援の内容と方法	2時間
	一時的な保育の実習	5時間
	一時預かり事業の意義と基本姿勢	2時間
	合計	27時間

図4-5 一時預かりの研修体系のイメージ（再掲）



【研修の留意事項】

- 研修受講対象は、保育従事者に加え事務・受付・運営等一時預かり事業にかかわるすべての従事者とする。
- 基礎研修は、保育士資格の有無に関わらず受講することが望ましい。
- 研修担当者は、研修講師に対して研修内容（研修終了後に獲得する知識・技術・態度）を事前に提示し、研修講師は研修修了後に獲得する知識・技術・態度を踏まえ、その目標に添った研修を行うように努める。
- 研修内容は一時的な保育を行う上で不可欠な知識や技術を優先する。たとえば「子どもの遊びとかかわり」では手遊びやおもちゃ製作よりも不安で泣く子どもを安心させるかかわりを優先する。
- 実習は、継続的な保育の場ではなく一時的な保育を行っている場で行う。
- 研修は、講義、演習、実習を組み合わせ実践に結びつく効果的な方法で行う。
- スキルアップ研修は継続的に行うことが効果的であり、団体・地域の課題に合わせて柔軟に行う

(2) 基礎研修後に受講者が獲得する 知識・技術・態度

一時預かり事業の意義と基本姿勢

保育者としての倫理（個人の尊重、個人情報保護、守秘義務）を守る
子どもの人権を尊重する
自己研鑽の必要性を知り自己研鑽を行なう
子育て支援が求められる背景を知る
子育て支援の利用に肯定的なまなざしをもつ
一時預かり事業の概要を知る
一時預かり事業の意義（保護者・子ども・親子関係支援）を知る
記録を理解し活用する
スタッフ間の連携を知る

一時的な保育の実習

倫理を守る姿勢を知る
一時的な保育の準備、預かる場面からお迎えまでと、その後のスタッフ間の話し合い等、一連の流れを知る
スタッフ間の連携を知る
子どもとかかわりと遊びを知る
事故防止と健康管理の行動を知る
保護者へのかかわりの実際を知る
記録・報告書の実際とふれ記述の仕方を理解する

一時的な保育における保護者支援の内容と方法

一時的な保育における保護者とかかわりの特徴を知る
保護者へのかかわりにおけるマナーと心得を知る
問合せ・申込・受付・帰宅時の対応の心得を知る
保護者への報告書の書き方を知る
保育中のトラブル等の報告の仕方を知る

一時的な保育における子どもとかかわりと遊び

子どもとの信頼関係を形成する具体的なかかわりを知る
不安を安心に変える具体的なかかわり方を知る
一時的な保育の子ども遊びの援助を知る
乳幼児に行いがちな人権侵害行為について具体的に知り人権侵害を行わない

一時的な保育の事故防止と健康管理

一時的な保育の特徴と起きやすい病気について知る
一時的な保育で起きやすい事故（屋内・屋外）

を知る
子どもの事故の特徴を知る
発達段階による危険な行動を知る
安全を守るうえで保育中に気をつけることを知り行動する
声かけによる安全の確認と情報の共有化の重要性を知り行動する
感染症の予防について知る
健康管理と異常の早期発見を行なう
危機管理（災害・不審者など）の基本を知る

事故発生後の対応と危機管理

事故が発生した場合の初期対応について知る
簡単な応急処置を行なう
報告について知る
危機管理（災害・不審者など）の基本を知る
救急法を行なう

(3) スキルアップ研修後に受講者が獲得する 知識・技術・態度

一時的な保育における保護者支援の内容と方法

一時的な保育における保護者とのかかわりの特徴を知る
一時的な保育の保護者における意味を知る
対人援助における基本マナーを知り守る
保護者へのかかわりにおける心得を知る
保護者へのかかわりにおける具体的な方法を知る
問い合わせ、申込み対応業務の心得を知る
受付時の業務と対応の心得を知る
帰宅時の業務と対応の心得を知る
保護者への報告書の書き方を知る
保育中のトラブル等の報告の仕方を知る
事故、クレーム、難しい保護者等の対応を知る
援助を必要とする保護者に対する援助を知る

一時的な保育における生活援助の内容と方法

効果的な生活援助の具体的な方法を知る
一時的な保育の生活援助は家庭のやり方に沿うことを知る
一時的な保育で不安を感じる子どもへの生活援助の方法を知る
家庭の生活援助把握の方法と内容を知る
時代によるしつけ方法の変化を知る
一時的な保育における食事の援助を行なう
一時的な保育における授乳を行なう
一時的な保育における睡眠と入眠ケアを行なう
一時的な保育における衣服の調節と着脱援助を行なう
抱っこの仕方、スリング等の使用方法を知り安全に使用する
一時的な保育のデイリープログラムを知る

一時的な保育における子どもの遊びとその援助

乳幼児にとっての遊びの概要と意義を知る
子どもの個性・発達段階・興味にあわせた遊びが重要であることを知る
子どもを理解するためには、子どもの観察が重要であることを知る
一時的な保育の遊びの特徴を知る
一時的な保育の場の設定の仕方を知る
一時的な保育のおもちゃと絵本の選び方を知る
年齢差が大きい一時的な保育の遊びを知る
一時的な保育の子ども遊びの援助を知る

子どもの発達と子どもとのかかわり

子どもの発達と環境の影響を知る
0歳の特徴と大人が誤解しやすい行動を知る
1歳の特徴と大人が誤解しやすい行動を知る
2歳の特徴と大人が誤解しやすい行動を知る
3～5歳の特徴と大人が誤解しやすい行動を知る
学童期の特徴を知る
大人が困る行動への具体的なかかわり方（反抗、けんか、乱暴など）を知る

5 今後の課題

(1) 研修の課題

研修は、一時預かり事業の質を保障する仕組みの一つであるが、そこにはいくつかの課題がある。

一つ目は予算と体制の課題である。ヒアリングにおいて各団体では研修予算が設定されていないために団体で研修を行なうことの困難性が指摘されていた。また、外部研修へ出すには体制の保障が必要であることも指摘されていた。団体での研修実施または研修への参加には環境条件の整備が必要であると考察された。

ヒアリングでは職場内研修(OJT)の重要性が指摘されていた。リーダーが責任を持ちスタッフの指導を行っている団体では職場内研修で職場外研修の少なさをカバーしていた。職場内研修を推進するためには、スタッフをマネジメントし現場で指導を行うことができるリーダーの養成と継続的な職場内研修を促進する仕組みをつくる必要があると考えられる。

また、研修は、事業開始前だけではなく継続的な研修が必要である。従事者の職場外研修(OFF-JT)を保障するためには、研修予算と体制保障が不可欠である。

二つ目は、研修における研修講師の課題である。一般的に子育て支援の研修講師は保育・幼児教育の研究者に依頼する場合が多い。モデル研修において受講者は具体的な子どもや保護者との関わり方や遊び方の研修を求めているが、保育技術と保育指導技術を持ちそれらを指導できる教員は少ない。発達の講義を担当できる教員は多くても、発達に合った子どもへの関わりを指導できる教員は少ない。たとえば「子どもとの信頼関係を形成する具体的ななかかわりを知る」、「不安を安心に変える具体的ななかかわり方を知る」、「一時的な保育の子ども遊びの援助を知る」を教授するためには、一時保育の場面を知悉し、子どもとかわる技術をもっていることが必要である。一時預か

り従事者で研修の講師をつとめることができる者は希少であり、各市町村あるいは県で他団体に対して指導ができる講師や研修講師を行なうことができる一時預かり事業の優れた実践者を紹介する仕組みや一時預かり事業を行う団体のネットワーク化が必要であると思われる。

三つ目は研修の限界である。研修には限界があり、モデル研修の受講は一時預かり従事者の質を保証するものではない。受講経験と受講者の力量は必ずしも一致しない。事故防止の研修を受講しても必ずしも全員が事故防止をできるようになるわけではない。短期的な研修で獲得できる知識と技術には限界があり、一時預かり従事者の質の保証には採用が最も重要である。たとえば幼児性愛嗜好者、精神疾患の状態にある者、子どもに虐待やネグレクトを行ったことがある者、注意力が散漫であり子どもに注意を向け続けることが難しい者、他者と良好なコミュニケーションをとることが困難である者を採用した場合には、研修を受講しても虐待・事故の可能性があり子どもと保護者の福祉を損ねる恐れがある。一時預かり従事者の質を保証し一時預かり事業の質を担保するためには、一時預かり従事者のマネジメントに携わる行政職員と団体責任者は、研修の限界と採用の重要性について理解することが必要であると考えられる。

(2) 一時預かり事業の質を保障する仕組み

資質向上の機会としては、職場内研修(OJT)、職場外研修(OFF-JT)、自己研鑽支援(SDS)の3つがあり、それらがバランスよく用意されるよう市町村及び運営主体は努めることが求められる。一時預かり事業従事者は、継続的な研修を受講すると共に自らの人間性と専門性の向上のために自己研鑽に努めなくてはならない。市町村及び運営主体には、継続的な研修の確保と同時に、従事者の自己研鑽を支援する仕組みを確保することが求められる。

また、一時預かり事業の質を保障するためには

研修や自己研鑽以外の仕組みを提供することも必要である。一時預かり事業に必要な知識をすべて研修で学習することには限界がある。たとえば事故防止・感染予防の知識だけでも膨大な知識が必要であり、研修以外で一時預かり事業に必要なノウハウの蓄積と提供を行う仕組みがあることが望ましい。

また、従事者研修は、従事者個人に対して働きかけるものであり組織風土と団体運営の全体に影響を及ぼす部分は少ない。一時預かり事業の質は、組織として発揮されるものであり、組織全体の質の向上につながる支援システムが必要であると考えられる。

一時預かり事業の質の保証には、事故防止ビデオの作成、ホームページからの研修番組の配信、ホームページからの資料のダウンロードなど、地域や予算に影響を受けずにすべての事業主体が最低限度必要な情報を得ることができる仕組みを作成することが必要であると考えられる。ヒアリング等から、各運営主体が必要としていると考えられる情報は以下の通りである。

- ・ 安全チェックリスト
- ・ 事故事例集
- ・ 子どもの発達と事故予防
- ・ 一時預かり従事者の健康管理、検便、予防接種などの基準

- ・ 保護者との連絡書類(情報把握、様子の伝達、持ち物リスト)
- ・ 不安を癒す安心感の工夫、ノウハウ、迎えと送り
- ・ 全年齢が遊べる遊び、使いやすいおもちゃ、絵本のリスト

以上のような内容を、映像や文書で、すべての一時預かり従事者が得られる仕組みを検討することが求められる。

一時預かり事業は、物理的環境と人的環境の質が良好である場合には、子どもの健やかな成長・発達に寄与し、保護者の育児負担感と不安感を軽減する事業となる。しかし物理的環境と人的環境の質が保たれない場合には、一時預かり事業を利用することによって、子どもの情緒が不安定となり、保護者の育児負担と不安感が増加する可能性を持っている。

一時預かり従事者に対する研修は、人的環境の質を保証する仕組みの一つであるが、それだけで一時預かり事業の質は保証できない。一時預かり事業の質を保証する多様な仕組みの検討が今後の課題として残されている。

(本章担当：橋本 真紀、高山 静子)

参考資料：モデル研修アンケート（例：保護者支援）
 アンケートにご協力をいただきましてありがとうございます

- 1 以下の基準に従い、項目別に枠の中にご記入ください
- 一時預かりを行う上で不可欠な知識である
 - 一時預かりを行う上で知っていたほうがよい
 - 一時預かりでは知る必要性が低い

◎
 ○
 ×

項目	◎○×
1. 一時預かり事業を利用する保護者の状況	
一時預かり事業の保育の特徴	
保護者にとっての意味	
一時預かり事業を利用する親子の様子	
2. 保護者への関わりの基本的姿勢	
保護者への関わりにおける心得	
保護者への関わりにおける具体的方法	
対人援助における基本マナー	
3. 保護者との関わりが生じる場面	
問い合わせ、申し込み対応業務と心得	
受付時の業務と対応の心得	
帰宅時の業務と対応の心得	
保護者への報告書の書き方（省略）	
4. 難しい状況や保護者への対応	
保育中のトラブル等の報告の仕方	
事故、クレーム、難しい保護者等の対応	
障害を言ってくれない、気がついていない保護者への対応	

2 保護者とのコミュニケーションに関連する内容で研修に加えたほうがよい内容がありましたら ご記入ください。

3 その他、本講義・研修内容に対するご意見をお聞かせください。

第5章 一時預かり事業への意識と利用の効果

第1節 研究の概要

1. 目的

子育て支援の中で、子どもの一時的な保育に対する希望は高いものの、実際の利用は多くないという実態がある。そこで本研究班では、前年度の研究において、一時保育やファミリーサポートセンターなどを含む一時預かりの保育サービス^(注1)に関する先行研究のレビューと一時預かりパイロット事業（以下、パイロット事業と記す）を実施している自治体及び運営主体に対するヒアリング調査を実施し、こうしたサービスの利用を妨げる要因と促進するための条件について検討した。その結果、サービスの利用に関して、情報提供、利便性、確実性、利用料金といった提供側の要因と、抵抗感など利用者側の要因があることが示された。これをふまえ、実際に乳幼児をもつ保護者を対象とした調査を実施し、一時預かりの保育サービス利用に関わる要因をより実証的に検討するとともに、保護者の持つ抵抗感について、その詳細な実態を把握することが課題として示された。

したがって本研究では、一時預かり事業の利用者・未利用者を対象とした質問紙調査を実施することにより、以下の点について明らかにすることを目的とする。

第一に、一時預かりの保育サービスを利用することについての意識やニーズ、実態を把握する。

第二に、利用者・未利用者が抱く「子どもを預ける抵抗感」の現状について把握し、「子どもを預ける抵抗感」とパイロット事業を利用することによる子どもや利用者の変化について検討する。さらに、「子どもを預ける抵抗感」の高い保護者にとって、一時預かりの保育サービス利用を促進する要因は何か検討する。

第三に、一時預かり事業の継続的な利用の実態とその影響を検討するために、パイロット事業の利用回数と子どもの変化、利用者の変化について明らかにする。

第四に、一時預かり事業を進めていくために必要な条件について、特に、未利用者の求める条件と利用者の求める条件に相違はないのか、また一時預かりの保育サービスの必要性を感じてはいるが、「子どもを預ける抵抗感」も高い保護者について、どのような条件が整備されれば実際の利用に結びつくのかについて検討する。さらに、これらをふまえ、利用の促進を中心に本事業における今後の課題を明確にする。

注1) …本調査では、質問紙等において「一時預かりの保育サービス」という言葉を用いた。ここでいう「一時預かりの保育サービス」とは、在宅子育て家庭が短時間や短期間、「一時的に」子どもの保育が必要になった時に利用する保育サービスのことであり、特に、一時預かりパイロット事業、ファミリーサポートセンター事業、認可外保育施設、ベビーシッター、NPOやボランティアなどによる一時的な保育サービスをさす。子どもを保育する場所には、保育のための施設の他に、子どもの自宅や保育者の自宅が含まれている。今回の調査においては、一時預かりパイロット事業だけでなく在宅子育て家庭を対象とする一時的な保育について、保護者がどのような意識やニーズ、実態を持つのかを広く把握することを目的としていること、また保護者の立場からでは、自身の利用している保育サービスが「一時預かりパイロット事業」であるかどうかを明確に回答するのは困難なため、調査結果に混乱が生じる可能性が考えられたことから、総称的に「一時預かりの保育サービス」という言葉を用いることとした。

2. 方法

一時預かり事業の利用に関する利用者の意向を把握するため健診調査及び利用調査の2通りの方法で質問紙調査を実施した。健診調査は、乳幼児の子育てをしている家庭一般の状況、特にパイロット事業未利用者の実態や意向を把握することを目的に実施したものである。またパイロット事業調査は、利用経験者の意向を把握するために行った。

調査対象は、乳幼児を持つ保護者とし、それぞれ以下の手続きにより質問紙を配布・回収した（調査地域とその具体的な内訳は表5-1及び5-2を参照）。

健診調査：平成19～20年度にパイロット事業を実施した地方自治体のうち、多様な利用者の全体像が比較的把握しやすいと考えられる人口規模が適度な大きさ（15～50万前後）の自治体（浦安市、越谷市、松戸市）を調査地域として選定し、1歳半健診時に質問紙を配布、持ち帰って回答を記入した上で郵送にて返信するよう依頼した。浦安市においては問診票に質問紙を同封して配布し、健診時に回収した。従って健診調査においては、1歳半前後の子どもをもつ家庭の保護者が対象となり、パイロット事業利用者及び未利用者両方が含まれる。

パイロット事業利用者調査：パイロット事業を実施する9自治体（宇都宮市・松戸市・浦安市・静岡市・越谷市・新潟市・世田谷区・日野市・仙台市）の運営主体に、調査開始以降のパイロット事業利用者に対して、約2ヶ月間随時質問紙を配布して、封筒に入れ封をした状態で回収するよう依頼した。仙台市については、100部配布し郵送により回収した（回収率69%）。仙台市以外のパイロット事業においては、回収数が50部になった段階で、調査期間を終了するよう依頼した（年間延べ利用者数が200人未満の場合は、30部とした）。質問紙の配布は、利用者への配布を依頼したが、

実際には一部利用未経験者が含まれている。

なお、パイロット事業利用者調査では保育の対象となる子どもの年齢・月齢については限定せず、利用者全体を対象とした。

調査の実施期間：2008年8～11月

質問項目：

- ①回答者の属性等：子どもの年（月）齢、回答者の立場、年齢、母親の就労状況、同居の家族構成、日中の子どもの過ごし方、居住年数、育児不安
- ②子どもを一時的に他者に預かってもらうことについて：保護者のニーズ、現在利用可能な資源、子どもを預けることに対する抵抗感
- ③一時預かりの保育サービスについて：利用に対する意識、情報の有無、利用経験とその頻度、利用による子どもの変化、自身の変化、利用の条件

なお、②における「現在利用可能な資源」の選択肢の中に、

- ・各調査実施地域のパイロット事業の具体的名称（表5-1参照）
- ・上記パイロット事業以外の一時預かりの保育サービス（施設での預かり）
- ・一時預かりの保育サービス（ファミリーサポート、ボランティア、ベビーシッターなど在宅での預かり）

を挙げ、回答者にはこれら3つを含めるものとして「一時預かりの保育サービス」について説明した。

3. 回収結果

パイロット事業における回収数及び健診調査における回収率は表5-1、5-2に示すとおりである。

表5-1 調査対象地域と具体的内訳

自治体名	パイロット事業の名称	サンプル数	配布場所		問2 ⑬の内容
			パイロ ット	健診	
仙台市	子育てふれあいプラザ	69	○		子育てふれあいプラザ
宇都宮市	ゆうあいひろば	44	○		ゆうあいひろば
越谷市	保育ステーション	50	○		保育ステーション
		71		○	
松戸市	ほっとるーむ東松戸	32	○		ほっとるーむ東松戸
		105		○	
浦安市	子育てテラスふらっと	38	○		子育てテラスふらっと
		182		○	
世田谷区	ship day nursery	34	○		ほっとすてい
	まちもり SukuSuku	9	○		ほっとすてい
	成城ムック	32	○		ほっとすてい
日野市	0歳児ステーションおむすび	28	○		0歳児ステーションおむすび
新潟市	子育て応援広場	54	○		子育て応援広場
静岡市	静岡中央子育て支援センター	54	○		子育て支援センター
静岡市	清水中央子育て支援センター	26	○		子育て支援センター
合計		828	470	358	

表5-2 調査対象地域と回収率

保健センター 1歳6か月健診	都市名	配布数	回収数(回収率%)
		越谷市	329
	松戸市	298	105(35.2)
	浦安市	280	182(65.0)
	計	907	358(39.5)
一時預かりパイロット事業	12箇所		470
合計回収数			828

第2節 結果・考察

1. 回答者及び子どもの属性

(1) 回答者について

回答者の子どもに対する続柄は、母親が806名(97.3%)と殆どを占め、次いで父親が8名(1.0%)、その他2名(おば、祖母;0.2%)であった(不明・未回答は12名;1.4%)。回答者の年齢を表5-1に示す。なお、健診調査とパイロット事業利用者調査とを比較すると、パイロット事業では比較的高齢(40~44歳)の人が多い傾向にあった(パイロット事業利用者調査:11.9%、健診調査:4.7%)。

表5-3 回答者の年齢

年齢	件数(割合%)
20歳未満	1(0.1)
20~24歳	21(2.5)
25~29歳	115(13.9)
30~34歳	341(41.2)
35~39歳	263(31.8)
40~44歳	73(8.8)
45~49歳	4(0.5)
50歳以上	1(0.1)
不明・未回答	9(1.1)
総数	828(100.0)

表5-4 母親の就労状況(括弧内の数値は割合)

調査実施場所	働いている	育児休業中	働いていない	未回答・不明	総数
パイロット事業	153(32.6)	45(9.6)	268(57.0)	4(0.9)	470(100.0)
健診	75(20.9)	59(7.1)	534(64.5)	7(0.8)	358(100.0)

表5-5 母親の就労形態(「現在働いている」と回答した者。括弧内の数値は割合)

調査実施場所	フルタイム	パートタイム	自営業	その他	未回答・不明	総数
パイロット事業	36(23.5)	62(40.5)	32(20.9)	22(14.4)	1(0.7)	153(100.0)
健診	34(45.3)	24(32.0)	10(13.3)	7(9.3)	0(0.0)	75(100.0)

母親の就労状況について尋ねたところ、「働いている」は228名(27.5%)、「育児休業中」は59名(7.1%)、「働いていない」は534名(64.5%)、「不明・未回答」は7名(0.8%)であり、現在は就労していない母親が多かった。また、「働いている」と回答した者の就労形態は、「フルタイム」が70名(8.5%)、「パートタイム」が86名(10.4%)、「自営業」が42名(5.1%)、「その他」が29名(3.5%)、「不明・未回答」が1名(0.1%)であった。

なお、調査の実施場所別に母親の就労状況とその形態を比較すると、表5-4及び表5-5のような結果となった。健診調査における回答者の方がパイロット事業利用者調査における回答者よりも就労していない母親の割合が高い。また、就労形態においては健診調査の場合フルタイムが多いが、パイロット事業利用者調査の場合パートタイムが多く、調査実施場所による傾向の違いが見られた。

同居の家族構成は「子どもとその父親、母親」が殆どであり、祖父母もしくはその他と同居していると回答したのは全体の約1割であった。また、子どもの人数は「1人」(465名)と「2人」(298名)で全体の約9割を占めた。詳細を表5-6～表5-8に示す。

また、現在住んでいる地域の居住年数を尋ねたところ、回答の得られた812名について、平均は6.74年(SD=8.22;レンジ0-41年)であり、そのうち140名(16.9%)は末子の年齢よりも居住年数が少なかった。つまり、出産後に転居しており、不慣れた土地で育児を行っている家庭も一定数あることが窺われる。

なお、調査地域ごとに比較すると、浦安市・日野市のパイロット事業利用者が特に居住年数の少ない人の割合が高く、3年以下の人が60%を超えていた(他の地域はおおむね30%~40%台)。特

に浦安市では、末子の年齢よりも居住年数が少ない人の割合が、他の地域(10.5%~27.8%)と比較して高かった(36.8%)。同様の傾向は同じ浦安市でも健診調査においては見られておらず、新しいマンション等が隣接するパイロット事業の設置場所が大きく影響していると考えられる。

さらに、「子育てに対する不安を感じることはあるか」という質問に対する回答は、「よくある」が165名(19.9%)、「ときどきある」が469名(56.6%)、「あまりない」が169名(20.4%)、「全くない」が18名(2.2%)、「不明・未回答」が7名(0.8%)であった。調査実施場所ごとに比較したところ、パイロット事業利用者調査と健診調査の間で全体的に傾向の違いは見られなかったが、松戸市のパイロット事業調査(34.4%)、新潟市(31.5%)、仙台市(26.1%)及び静岡市(27.5%)では「よくある」の割合が高かった。

表5-6 同居の家族構成 (複数回答)

	件数	割合(%)
父親	785	94.8
母親	801	96.7
子ども	799	96.5
祖父母	90	10.9
その他	24	2.9
総数	828	100.0

表5-7 子どもの人数

	件数	割合(%)
1人	465	56.2
2人	298	36.0
3人	52	6.3
4人	10	1.2
不明・未回答	3	0.4
総数	828	100.0

表5-8 同居の祖父母 (N=828)

	件数	割合(%)
父方祖父あり	35	4.2
父方祖母あり	44	5.3
母方祖父あり	29	3.5
母方祖母あり	32	3.9

(2) 子どもについて

本調査時にパイロット事業による一時的な保育及び健診の対象であった子どもについて、その出生順位を尋ねたところ、表5-9のような結果が得られた。過半数が第一子である。特にパイロット事業利用者においては全体の68.9%が第一子であった(健診調査では50.8%)。

また、回答者の子どもについて、出生順位ごと

の年齢・月齢(0歳児のみ)を尋ねた。なお、0歳児でない場合にも月齢まで回答しているなど回答者によって表記の仕方がまちまちであったため、「4歳」を「48か月」というように、年齢のみ回答の場合もすべて月齢で換算した上で、空欄であった場合(欠損値)を除き集計した。結果を表5-10に示す。このうち末子の月齢は、平均20.9ヶ月(SD=11.1;レンジ0-75ヶ月)であった。

表5-9 子どもの出生順位

	件数	割合(%)
1 番目	506	61.1
2 番目	248	30.0
3 番目	46	5.6
4 番目	6	0.7
不明・未回答	22	2.7
複数利用	25	3.0
総数	828	100.0

さらに、子どもが日中過ごす場所について尋ねた結果、表5-11及び表5-12のような結果が得られた。いずれの出生順位においても「保護者と一緒」が最も多い。このうち末子（一人っ子を含む）の保育状況については、「保護者と一緒」が654名（79.1%）、「保育所」が102名（12.3%）、「幼稚園」が42名（5.1%）、「その他」が5名（0.6%）、「未回答・不明」が25名（3.0%）であった。特に健診調査では「保護者と一緒」が83.5%にのぼった（パイロット事業利用者調査では75.5%）。年齢別に見ると、0歳児～2歳児は殆どが保護者と一緒に過ごしていることが示された。また、3歳児になると半数近くが保育所・幼稚園で過ごすよ

表5-10 子どもの月齢

	第一子	第二子	第三子	第四子
	N=822	N=352	N=61	N=7
平均	43.2	29.6	25.0	18.3
SD	36.0	29.0	15.9	17.3
レンジ	4-252	0-204	1-73	1-44

うになり、その内訳にも大きな差は見られないが、本調査では4・5歳児の多くが幼稚園に通っているという結果が得られた。なお、末子が保育所と幼稚園のどちらに通っているのかについては一部で地域による差が見られた。越谷市及び松戸市では全体的に「保育所」が多く（20.7%、13.1%）。幼稚園はいずれも0.0%、世田谷区では「幼稚園」（14.7%。「保育所」は2.7%）が多かった。一方浦安市では、パイロット事業利用者調査において「幼稚園」（7.9%。「保育所」は2.6%）、健診調査において「保育所」（12.6%。「幼稚園」は0.0%）が多く、同じ市内でも地域によって異なる傾向を示した。

表5-11 出生順位ごとの子どもが日中過ごす場所

	第一子		第二子		第三子		第四子	
	N=828		N=352		N=61		N=7	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
保護者と一緒	464	56.0	253	71.9	46	75.4	6	85.7
保育所	92(15)	11.1	36(3)	10.2	8	13.1	1	14.3
幼稚園	155(2)	18.7	37	10.5	7	11.5	0	0.0
小学生以上	122	14.7	22	6.3	0	0.0	0	0.0
その他	3(1)	0.4	2	0.6	0	0.0	0	0.0
不明・未回答	10	1.2	5	1.4	0	0.0	0	0.0

* ()内は複数選択されていた場合(2つ目に挙げられていた場合)の件数

* 第一子は総数に対する割合を、第二子以降は月齢が記入されていた件数に対する割合を算出した

表5-12 年齢ごとの子どもが日中過ごす場所

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児	
	N=92		N=525		N=146		N=124	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
保護者と一緒	87	94.6	448	87.0	138	94.5	67	54.0
保育所	3	3.3	68(9)	13.2	12(6)	8.2	25(3)	20.2
幼稚園	0	0.0	0	0.0	1	0.7	35(1)	28.2
小学生以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	2	0.4	1	0.7	2(1)	1.6
不明・未回答	2	2.2	6	1.2	0	0.0	0	0.0
	4歳児		5歳児		6歳児		7歳以上	
	N=102		N=74		N=82		N=107	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
保護者と一緒	15	14.7	3	4.1	5	6.1	6	5.6
保育所	15	14.7	9	12.2	5	6.1	0	0.0
幼稚園	72(1)	70.6	61	82.4	29	35.4	0	0.0
小学生以上	0	0.0	0	0.0	43	52.4	101	94.4
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・未回答	1	1.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0

* ()内は複数選択されていた場合(2つ目に挙げられていた場合)の件数

(3) まとめ

本調査の回答者は母親がほとんどであり、このうち育児休業中の人も含めると約7割が就労していなかった。特に、子どもが0歳～2歳の家庭では、家庭で子育てをしている場合が9割前後を占めていた。回答者の年齢としては30代が最も多く(前半・後半をあわせると約7割にのぼる)、健診調査を行ったため1歳児のいる家庭が全体の6割を超える。また、ほとんどが子ども1人～2人の核家族であった。これらの特徴は、調査実施地域によって一部に違いは見られたものの、おおむね共通している。

さらに、居住年数の平均は6.74年であり、末子の年齢よりも居住年数の少ない家庭も18%にのぼることから、育児に関する様々な情報や、自分の両親、親戚、友人、近隣の住民などインフォーマルなサポート資源に乏しい状況で子育てをしている回答者は一定数いることが推察される。回答者が実際に子どもを人に預ける必要性を日常どの程度感じているのか、またその際に預ける先は誰(またはどこ)で、いくつくらいあるのかについては、次項で検証する。

属性についてこうした特徴をもつ本調査の回答者において、子育てに対する不安を感じる人は「よくある」「ときどきある」をあわせると76.5%にのぼった。子育てに不安を感じることは、程度差はあれ多くの人を経験することであると思われる。ただし、全体の約2割が「よくある」と回答しており、また4人に1人または3人に1人が「よくある」と回答している調査実施場所も複数見られた。これらの中には、支援の必要性の高い子育て家庭も少なくないと考えられる。

2. 子どもを預けることについて

(1) ニーズと預け先

「お子さんを誰かに預かってほしいと思いますか」という質問に対して、「よく思う」「時々思う」と回答した人は全体の約9割(89.9%)にのぼり(表5-13)、子どもを預けることへのニーズの高さが改めて示された。パイロット事業利用者調査では「よく思う」37.2%、「時々思う」57.9%を合わせて約95%、健診調査においても、「よく思う」19.6%、「時々思う」63.4%を合わせて約80%が子ど

もを誰かに預かって欲しいと思うことがあると感じている。パイロット事業利用者調査において、ニーズの高さが見られるのは当然の結果ではあるが、一般家庭の全体的な傾向を示す健診調査においても同様に、一時的な保育のニーズの高さが示されることとなった。

そこで、一時的な保育へのニーズの高さが、実際の利用につながっているかという観点から、調査実施場所別に利用経験の有無について集計してみた。結果を表 5-14 に示す。パイロット事業利用者調査では、利用経験ありとするものが 88.3%であるのに対して、健診調査では 28.2%であった。先にも見たとおり、一般家庭における一時的な保育へのニーズは高いにもかかわらず、それが実際の利用につながっていない現状が示されることとなった。なお、実際に一時預かりの保育サービスを利用した経験の有無による預かり

の希望を比較すると、「利用経験あり」の人は「利用経験なし」の人よりも「よく思う」の割合が高く、「あまり思わない」「全く思わない」の割合が低い(表 5-15)。このことは、実際にパイロット事業を利用している対象者が半数以上含まれていることも勘案する必要があるが、実際に利用を経験してみると、次の利用につながっていく可能性があることを示唆している。

子どもを預ける預け先(表 5-16)は、急用、買い物・用事、リフレッシュのいずれの理由においてもおおむね配偶者が最も多く選択されており、次いで「自分(回答者)の母」、パイロット事業、保育所の順となっている。一方、預ける理由別に件数を比較すると「急用」、「買い物・用事」、「リフレッシュ」の順となり、当然のことながら必要性の高さに応じて件数が異なる。

表5-13 預かりの希望

	よく思う	時々思う	あまり思わない	全く思わない	不明
パイロット事業 n=470 割合(%)	175 37.2%	272 57.9%	18 3.8%	1 0.2%	4 0.9%
保健センター n=358 割合(%)	70 19.6%	227 63.4%	50 14.0%	7 2.0%	4 1.1%
全体 n=828 割合(%)	245 29.6%	499 60.3%	68 8.2%	8 1.0%	8 1.0%

表5-14 調査実施場所別利用経験の有無

	利用経験あり	利用経験なし	未回答・不明
パイロット事業 n=470 割合(%)	415 88.3	45 9.6	10 2.1
保健センター n=358 割合(%)	101 28.2	253 70.7	4 1.1
全体 n=828 割合(%)	516 62.3	298 36.0	14 1.7

表5-15 預かりの希望(一時預かりの利用の有無別)

利用経験	預かり希望				
	よく思う	時々思う	あまり思わない	全く思わない	未回答
利用経験あり n=515	187	302	20	2	4
割合(%)	36.3	58.6	3.9	0.4	0.8
利用経験なし n=299	53	190	46	6	4
割合(%)	17.7	63.5	15.4	2.0	1.3
全体	240	492	66	8	8

ただし、パイロット事業においてのみ「リフレッシュ」目的で預ける割合が「買い物・用事」よりもやや高い割合を示している点が特徴的である。また、「そのような人はいない」という回答を選択する人も一定数存在し、特に「急用」の場合でも預ける先がないと回答している人が17名いた。

預け先の選択は複数回答可とし該当する預け先はすべて選択するよう求めていたため、選択された預け先の数についても集計を行った(表5-17)。「急用」の場合については複数の回答が多く選択されているが、「リフレッシュ」の場合では預ける先は1つのみという回答が多い傾向が見られる。

表5-16 子どもの預け先

	急用		買い物・用事		リフレッシュ		
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	
配偶者	581	70.2	512	61.8	494	59.7	
自分の父	115	13.9	88	10.6	69	8.3	
自分の母	391	47.2	296	35.7	252	30.4	
配偶者の父	55	6.6	43	5.2	30	3.6	
配偶者の母	178	21.5	120	14.5	68	8.2	
きょうだい	84	10.1	52	6.3	37	4.5	
その他の親族	21	2.5	12	1.4	8	1.0	
友人	57	6.9	15	1.8	10	1.2	
近所の知人	41	5.0	14	1.7	7	0.8	
職場の人	3	0.4	0	0.0	0	0.0	
保育所	142	17.1	71	8.6	65	7.9	
幼稚園	44	5.3	29	3.5	25	3.0	
一時預かりの 保育サービス	パイロット事業	321	38.8	219	26.4	235	28.4
	施設での預かり*1	70	8.5	51	6.2	56	6.8
	在宅での預かり*2	56	6.8	30	3.6	25	3.0
その他	4	0.5	5	0.6	5	0.6	
いない	33	4.0	60	7.2	69	8.3	

*1…パイロット事業以外での施設における預かり

*2…ファミリーサポート・ボランティア・ベビーシッターなど

表5-17 預け先の数

	急用		買い物・用事		リフレッシュ	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
0(17「いない」のみ)	17	2.1	43	5.2	56	6.8
1つ	176	21.3	293	35.4	330	39.9
2つ	226	27.3	227	27.4	194	23.4
3つ	209	25.2	136	16.4	127	15.3
4つ	105	12.7	46	5.6	37	4.5
5つ	43	5.2	20	2.4	14	1.7
6つ	31	3.7	15	1.8	8	1.0
7つ	9	1.1	4	0.5	3	0.4
8つ	3	0.4	0	0.0	0	0.0
すべてに未回答	9	1.1	44	5.3	59	7.1
総数	828	100.0	828	100.0	828	100.0

(2) 一時預かりの保育サービスを利用することについて

一時預かりの保育サービス利用については、「子どもへの良い影響」「できる限り自分で育てたい」という思いを持っている保護者が特に多い傾向が見られ(表5-18)、「とてもあてはまる」「や

やあてはまる」が全体の8割を超える。ただし、「かわいそう」「不安」「初めての人や場所は苦手」という人もそれぞれ全体の40%以上にのぼった。一方、「子どもへの悪影響の懸念」を持っている人や「他の親子と接したくない」という人は少なかった。

表5-18 利用に関する意識 (n=828)

	とてもあてはまる		ややあてはまる		あまりあてはまらない		全くあてはまらない		不明・未回答	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
子どもに良い影響がある	230	27.8	475	57.4	108	13.0	8	1.0	7	0.8
子どもがかわいそうだ	35	4.2	306	37.0	361	43.6	124	15.0	2	0.2
できる限り自分の手で育てたい	232	28.0	431	52.1	139	16.8	24	2.9	2	0.2
子どもに悪影響を及ぼす	3	0.4	63	7.6	409	49.4	348	42.0	5	0.6
子どもを預けるのが不安	67	8.1	302	36.5	296	35.7	159	19.2	4	0.5
初めての人や場所は苦手	100	12.1	271	32.7	282	34.1	173	20.9	2	0.2
周囲からどう思われるか不安	17	2.1	90	10.9	280	33.8	438	52.9	3	0.4
他の親子と接したくない	3	0.4	33	4.0	244	29.5	545	65.8	3	0.4
利用について批判された	28	3.4	82	9.9	169	20.4	543	65.6	6	0.7
条件が合わない	41	5.0	158	19.1	381	46.0	235	28.4	13	1.6
よく知らない	68	8.2	148	17.9	259	31.3	351	42.4	2	0.2

また、こうした一時預かりの保育サービスをどの程度知っているのか、サービスの認知の程度については表5-19のような結果が得られた。

実際の利用経験の有無について尋ねたところ、「利用経験あり」は516名(62.3%)、「利用経験なし」は298名(36.1%)、「未回答・不明」は14名(1.7%)であった。先にも見たとおり、これを

調査実施場所別に見ると(表5-14)、健診調査では利用経験あるのは全体の28.2%にとどまっており、子育て家庭一般については利用の普及が十分には進んでいないと言える。

その上で、利用経験がある人について、どのようなサービスを利用したのか、具体的な名称と利用状況など利用の実態について集計した。結果を

表5-20-1～3に示す。

パイロット事業以外の保育サービスとしては、保育所が多く利用されている。一方で、認可外保育施設も99名と比較的によく選択されており、特

にその3分の1にあたる33名は認可外保育施設のみ利用経験があるとしていた。複数のサービスを利用していると回答した人は、約3割にのぼる。

表5-19 サービスの認知

	件数	割合(%)
よく知っている	208	25.1
少し知っている	412	49.8
あまり知らない	141	17.0
全く知らない	53	6.4
未回答・不明	14	1.7
総数	828	100.0

表5-20-1 利用経験のある一時預かりの保育サービス種別（複数回答）

	件数	割合(%)
パイロット事業	328	63.6
保育所(保育所の一時保育、市の一時保育)	178	34.5
幼稚園(預かり保育を含む)	11	21.3
ファミリー・サポート・センター	44	85.3
認可外保育施設	99	19.2
その他	39	75.6
未記入	6	1.2
総数	516	100.0

表5-20-2 一時預かりの保育サービスの利用パターン

	件数	割合(%)
パイロット事業(のみ利用)	207	40.1
保育所(のみ利用)	88	17.1
幼稚園(のみ利用)	2	0.4
ファミリー・サポート(のみ利用)	12	2.3
認可外保育施設(のみ利用)	33	6.4
その他(のみ利用)	7	1.4
複数利用に1,2,3が含まれる人	144	27.9
複数利用に1,2,3が含まれない人	17	3.3
未記入	6	1.2
総数	516	100.0

表5-20-3 記入された一時預かりの保育サービスの個数

	件数	割合(%)
1つ	346	67.1
2つ	143	27.7
3つ	17	3.3
4つ	4	0.8
未記入	6	1.2
総数	516	100.0

さらに、一時預かりの保育サービスを利用した経験のある516名に対して、一時預かりの利用によって子どもにどのような変化が見られたと思うか、あてはまることをすべて選択するよう求めた(表5-21)。その結果、「他児に興味を示す

ようになった」が最も多く選択されており、「子ども同士で遊べるようになった」を選択する割合も比較的高かった。そのほか「遊具で楽しく遊ぶ」「保育者になつく」など、全体的に子どもの発達の促進に関わると考えられる良い効果を認める傾向が見られる。

ただし一方で「以前より甘える」「疲れた様子が見られる」など、ネガティブと思われる変化についても一定数の人が選択していた。

一方、一時預かりの利用による利用者自身の変化(表5-22)としては、「改めて子どもをかわいいと思えた」を選択する割合が最も高かった。また「子どもの成長を感じることができた」も高い。一時預かりの利用は、「時間を有効に使える」こ

とや「地域に頼れるところがあると思えるようになった」こと、また「精神的なゆとりがもてる」といった生活や子育てのしやすさや安心感に当然つながってはいるが、利用者自身が改めて子どもと向き合う機会ともなり、親子関係の調整の効果を示唆される。

表5-21 一時預かりの利用による子どもの変化
(複数回答可)

	件数	割合(%)
変化なし	94	18.2
遊具で楽しく遊ぶ	182	35.3
保育者になつく	188	36.4
他児に興味を示す	235	45.5
他児と遊ぶ	179	34.7
保育中のことを後で話す	111	21.5
夕食をよく食べる	39	7.6
夜よく眠る	92	17.8
成長(できるようになった)	142	27.5
以前より甘える	81	15.7
よく泣く	21	4.1
疲れた様子を見せる	68	13.2
体調を崩した	34	6.6
その他	59	11.4
すべての項目に未回答	2	0.4
総数	516	100.0

表5-22 一時預かりの利用による利用者の変化
(複数回答可)

	件数	割合(%)
変化なし	15	2.9
時間を有効利用できる	310	60.1
地域に頼れるところがあった	279	54.1
精神的ゆとりをもてる	311	60.3
子どもがかわいい	337	65.3
子どもの成長を実感した	260	50.4
育児に安心感がもてた	64	12.4
保育者と話すことができた	171	33.1
相談相手を得られた	106	20.5
他の保護者と話す機会が増えた	44	8.5
地域に新しい友だちを得た	32	6.2
預け先に不満が残った	8	1.6
子どもと離れる不安が強くなった	14	2.7
その他	26	5.0
すべての項目に未回答	1	0.2
総数	516	100.0

(3) 一時預かりの保育サービスの利用経験の有無による意識の違い

一時預かりの利用経験の有無と一時預かりを利用することに関する意識についてクロス集計を行った。利用経験の有無(あり:N=516, なし:N=298)により特に異なる傾向の見られた項目について、表5-23~5-28に示す。

特に差が顕著であったのは、一時預かりの保育サービスの利用によって「子どもに良い影響があると思う」という評価についてであった。利用経験者では「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を合計すると全体の90%にのぼるのに対し、利用未経験者では76%にとどまっている。さらに、このうち「とてもあてはまる」の割合は、利用経験

者35%に対し未経験者は15%であった。

一方、子どもを預けることについて実際に批判的なことを言われた経験を持つ人は、利用経験ありの人の方が高い割合を示した。ただし、利用経験のない人にも批判経験のある人が存在している。

また、「子どもを預けることが不安だ」「そもそも一時預かりの保育サービスについてよく知らない」については、いずれも「利用経験なし」の方が「利用経験あり」よりも「とても」「やや」ともに割合が高く、大きな差が見られた。後者については「お住まいの地域で一時預かりの保育サービスがどこで実施されているか知っていますか」という質問(問5)に対する回答とのクロス

集計においても、利用経験のない人はある人に比べて「あまり」「全く」知らないという回答の割合が高いという結果が得られたこととあわせて、情報の把握が利用経験と関連していることを示していると捉えられる。

さらに、子育てに対する不安について利用経験の有無により比較を行ったところ、「よくある」と回答した人の割合は利用経験のある人の方がいない人よりも高かった。

表5-23 利用経験の有無別「子どもに良い影響があると思う」 下段:割合(%)

利用経験	子どもに良い影響があると思う				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
利用経験あり n=516	183 35.5	284 55.0	42 8.1	2 0.4	5 1.0
利用経験なし n=298	45 15.1	183 61.4	62 20.8	6 2.0	2 0.7
全 体	228	467	104	8	7

表5-24 利用経験の有無別「子どもを預けるのが不安」 下段:割合(%)

利用経験	子どもを預けるのが不安				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
利用経験あり n=516	22 4.3	161 31.2	208 40.3	123 23.8	2 0.4
利用経験なし n=298	45 15.1	138 46.3	82 27.5	32 10.7	1 0.3
全 体	67	299	290	155	3

表5-25 利用経験の有無別「実際に批判的なことを言われたことがある」 下段:割合(%)

利用経験	実際に批判的なことを言われたことがある				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
利用経験あり n=516	22 4.3	67 13.0	109 21.1	316 61.2	2 0.4
利用経験なし n=298	6 2.0	14 4.7	56 18.8	219 73.5	3 1.0
全 体	28	81	165	535	5

表5-26 利用経験の有無別「一時預かりの保育サービスをよく知らない」 下段:割合(%)

利用経験	一時預かりの保育サービスをよく知らない				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
利用経験あり n=516	2 0.4	43 8.3	178 34.5	292 56.6	1 0.2
利用経験なし n=298	65 21.8	104 34.9	75 25.2	54 18.1	0 0.0
全 体	67	147	253	346	1